バイバイの前に家族みんなとハグしてきた。でもまた２週間後に会える。空港で荷物を預けてからは自由時間で、少しお土産を買ってから龍音とスターバックスに行った。海外のスターバックスは名前を聞かれるのだが Fumiha を Kumiha に間違えられていた。これもアメリカならではの楽しみ✈羽田行きの飛行機では The Greatest Showman を２回連続で見た。羽田についてからはみんなでうどんを食べた。久しぶりに日本らしいものを食べた気がする。羽田からの飛行機は龍音と聖と隣の席で、聖は寝ていて龍音とひたすらお喋りしていたから千歳にすぐついた。２週間の留学があっという間に終わってしまった。

*〈事前課題の研究結果について〉*

～ハワイ環境保全のリアル～

私はハワイのオーガニック商品やそれらの商品によるハワイの環境への影響をテーマに調べることにしました。このテーマを設定した理由は、ハワイではノンケミカルの日焼け止めを推奨したり日焼け止めの制限をしていたりする他、オーガニックコスメブランドやノンケミカルのボディーローションが多く売られていると観光誌を読んで知り、それらが与える影響について知りたいと思ったからです。

現地ではホストファミリーに聞いてみたり、自分で商品を使ってみたりして調査しました。

①日焼け止め、ボディーローションについて

私は、実際にノンケミカル、オーガニック仕様の商品を使ってみたいと思ったのでホストファミリーにそのような商品を買いに行きたいと伝えました。ですが、ホストマザーは日焼け止めはノンケミカルのものが売っているけれどボディーローションは案外、化学物質が多く含まれたものがたくさん売っている。ハワイの住民もみんながみんな環境について気にかけているわけではないのだと言っていました。実際私がお土産として買った Bath　and Body Works というお店のボディークリームも化学物質の含まれる量が少ない仕様にはなっているものの、完全に無いわけではありませんでした。

②家のシャンプー類について

ホストファミリーの家で使用していたシャンプー、トリートメントはアルバボタニカというもので、オーガニック 100 パーセントの表記がありました。シャンプーは少し泡立ちが良くなかったが肌が荒れることもなく２週間使い続けることができました。すごくココナッツの香りがしました。

③ハワイの道、ビーチ等の環境

ハワイはポイ捨てもなく、ビーチにはプラスチックごみなどが全然落ちていなそう!というイメージで行きましたが、実際は高速道路の道端にポイ捨てされたであろうゴミが溜まっていたり、ビーチの砂浜にはペットボトルや釣具などのプラスチックごみ、ビニールゴミがたくさん落ちていたりしました。さらに、家の周りをホストシスターと散歩したときは公園に使えなくなったサッカーボールやお菓子のパッケージまで落ちていました。私は、ホストシスターと一緒に近所やビーチでゴミ拾いをしました。ホストファミリーは普段からゴミが道に落ちていたら拾うようにしているそうです。

事前学習ではハワイは環境保全に力を入れており、街はとてもきれいで住民全体での環境保全に対する意識も高いだろうと予想を立てていましたが、実際にはハワイの住民全体の意識が高いとは言えないこと、ハワイで売っている商品すべてがノンケミカル、オーガニック仕様な訳では無いということがわかりました。そして私は、日焼け止めなど一部の規制だけでは環境問題改善は程遠く、より効果的な、多くの人を巻き込んで行える改善案が必要であると感じました。また、少しでも良いから私のホストファミリーのようにゴミ拾いをしてみたり、オーガニック 100 パーセントのシャンプーやボディーソープを取り入れたりしてみるのも良いと思いました。そこで、環境問題をより効果的に改善するにはどうしたら良いのだろうという疑問が生まれたので今後の研究課題にしたいと思います。

*〈最後に〉*

今回の留学に参加できて本当に良かったと思う。２週間ハワイの学校に通って、ドレスコードや授業の制度、学校の雰囲気など日本の学校との違いが大きくてとても驚いた。そして、ワイパフ高校で友達を作ることもできて毎日学校に通うのが楽しかった。また、家でははじめは少しだけ緊張していてあまり積極的に話したり、心から笑ったりできていなかったがホストファミリーと夜ふかしして映画を見たり毎日チェスをしたりご飯を一緒に食べたりしていくうちに会話も増えて、リスニング力もついたため毎日笑顔でリラックスして過ごすことができたと思う。さらに、ホストファミリーだけでなく一緒にこの留学に参加したと生徒ともたくさん話してとてもいい友達になることができた。そして今回の留学では何にでも積極的にチャレンジする事ができた。この経験が少しでも自分の自信につながればいいなと思う。最後に、今回留学に参加させてくれた両親と事業を支えてくれた方々、ホストとして私を受け入れてくれたホストファミリーに深く感謝しています。
Mahalo!

# 留学を通して

北海道室蘭栄高等学校 ２年

今回私は、１月 12 日から１月 26 日までの２週間アメリカ合衆国ハワイ州のワイパフ高校への留学事業に参加させていただきました。まず、この留学事業に参加するにあたって支えてくださった両親、先生、北海道教育委員会の職員の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

事前課題において、私はハワイと日本の文化の違いについてというテーマを設定しました。

このテーマを設定した理由は、以前からに外国の文化を学び、日本の文化と比べて新たな発見をするのが好きだからです。その中でも、今回の留学では、日本には無いチップ文化について知りたいと思っていました。

パートナーにたくさんのお店へ連れて行ってもらって、調査しました。
ハワイのお店のほとんどが、レジでチップについて選択できるようになっていました。初めは、絶対に払わないといけないものだと思っていたのですが、「払わない」という選択もあったことに驚きました。私は、せっかくの機会だったので、毎回チップを払っていました。パートナーに聞くと、カフェなどでドリンクを頼む際は、一杯につき１ドルくらい払うそうです。

どのお店にもレジのところにチップを入れる専用の入れ物があって、日本の文化との違いを感じることができて良かったです。

**《現地での生活》**
**～授業の様子～**

今回私が通ったワイパフ高校は真珠湾がすごく近く、学校の中の建物から真珠湾が見えてとても綺麗でした。日本の学校と違い、とても広くて、大学のキャンパスのような感じでした。私は最後まで建物の場所を把握することができず、パートナーに連れて行ってもらいました。

私のパートナーは調理実習の授業をたくさん取っていて、パートナーと同じ授業に出る時は、ほとんど調理実習をしました。私が滞在している間に調理の授業を取っている生徒がレストランを開くという行事があったので、みんなそこに向けた料理の研究などを行っていました。

フラダンスの授業や、レイ作りなどハワイでしか体験できないことを体験することができました。

生徒の皆さん、先生方にとても優しく接して頂いて、不安もありましたが、最後までトラブルなく過ごすことができました。

**～放課後～**

私のパートナーは女子バスケットボールクラブのマネージャーだったので、放課後はバスケットボールクラブに行っていました。
コーチやクラブメンバーが私のことを本当のマネージャーのように接してくれて、本当に嬉しかったです。

17 日金曜日には、シニアナイトというバスケットボールの試合があり、試合の後、私のパートナーを含む、最高学年を祝うセレモニーが開催されました。
最高学年の生徒たちがスピーチをしたり、ジュニアチームとシニアチームでそれぞれダンスの発表をしたりと日本にはないイベントでとても楽しかったです。

私は見るだけだと思っていたのですが、コーチやクラブメンバーが誘ってくれて、ジュニアチームとしてダンス発表に参加したり、スペシャルゲストとして、紹介してもらったり、本当に貴重な体験をさせていただきました。

**～休日～**

最初の土曜日は、パートナーにアラモアナショッピングセンターに連れて行ってもらいました。とても大きくてワクワクしたのは良いのですが、ハワイの物価の高さの壁を感じました、、

日曜日の午前中はグランドマザーとパートナーに買い物に連れて行ってもらった後、他の留学生たちと合流してローラースケートに行きました。初めてのローラースケートで支えがないと滑れませんでした。でもとっても楽しかったです。

20 日は祝日で、ハイキングに行った後、他の留学生たちとビーチに行きました。ボディーサーフをしたり、とても楽しい経験ができました。

最後の土曜日は、パートナーがレストランのミーティングがあったので、マザーにワイキキにショッピングに連れて行ってもらいました。ドライブ中「ここは～だよ」とか「こうやって作られたんだよ」とかワイキキにある建物についてたくさん説明してくれました。
ハワイといえばのワイキキビーチにも連れて行ってもらいました。

**《留学を通して感じたこと》**

・やりたいと思ったら挑戦すること
→私はずっと留学に行きたいと思っていて、担任の先生に相談してこの事業に参加することができました。たくさんの方々の支えもありましたが、自分でこの決断をして、自分にとってすごく貴重で有意義な経験をできたことがすごく良かったし、これからもこの力を活かせると思います。

・感謝の気持ちを忘れないこと
→この留学事業だけではなく、これまで経験してきたことは全て自分ひとりの力では何もできなかったと思います。両親は、財政面ももちろんですが、私が挑戦したいことに対して背中を押してくれてたくさんのことに挑戦してたくさんのことを経験できている自

分がいるのだと思います。また、留学中は、ホストファミリーがいなければ、２週間トラブルなく過ごせなかったと思います。滞在中、たくさんの人の支えがあったことを忘れずに過ごしました。

# 留学を通して

北海道釧路明輝高等学校　１年

［参加した理由］

僕は中学生の頃から留学に強い魅力を感じていて、高校生になったら絶対に留学をしたいと思っていました。高校に入学した後も担任の先生などに留学をしたいことをずっと伝えていて、今回のプログラムを紹介されて参加しました。

（あまり文章を書くのが上手くなくて、日記みたいになっているかもしれませんが、少なくともこの報告書を読んで留学をしてみたいと思ってくれて、実際に留学に行く人にとって少しでも参考になれば嬉しいです。）

［現地生活の様子］

～１日目～

僕はハワイまでの６時間のフライトで一睡もできなかったので、着いた時は疲れていて空港内で手続きを行う中、ハワイに着いたという実感はあまり湧きませんでした。入国審査を終え空港を出るとハワイの首飾りのレイや、自作の名前ボードを持ったホストファミリーたちが待っていました。その瞬間、今までぼんやりしていた実感が一気に湧きました。

ホストブラザーと初めて会って少し緊張したけれど、一緒に昼食を食べながら色々話し、すぐに慣れました。また、その日はホストブラザーにアラモアナショッピングセンターに連れていってもらい、色々な店で買い物を楽しみました。ここで気づいたことは、店員さんなど人たちがとてもフレンドリーだということです。またこの日だけで 200 ドル以上も使ってしまい、通貨が変わったことによって金銭感覚が狂うということに気づきました。買い物を終えた後はハワイのソウルフード「ポケ」を買ってアラモアナビーチで食べました。夜はホストファミリーの飼い犬の散歩に行きました。
とても充実した１日で楽しかったです。

～２日目～

今日は朝ごはんにお米が出てきて驚きました。この日は学校の初日で最初はとても緊張したけれど、その日のうちに環境に慣れることができました。一日中、現地の日本語クラスを受講している生徒たちと自己紹介をしたりコミュニケーションをとったりするような授業内容で、共通の趣味の友達がたくさんできました。また、多くの生徒の前での自己紹介のプレゼン発表を行いました。いい感じに会場が盛り上がって、発表を進めやすくて楽しかったです。今日気づいたことは、授業中に食べ物を食べて良かったり、やることを終えればスマホを触って良かったり、校内にニワトリがいたりと、学校の雰囲気が日本の高校と比べてとても明るく自由で、大きく異なるということです。夜ご飯には、ドミノピザを食べました。日本のドミノピザと比べると、値段は安く大きかったです。

～３日目～

今日は朝ごはんにシリアルを食べました。今日は登校２日目で１日中ホストブラザーと

一緒に授業を受けました。１時間目は数学で、やっている内容はなんとなくわかりましたが、言語が違うととても難しくなることに気づきました。授業の最初から食べ物を食べ始める人がいて、改めてハワイの高校の自由度に驚きました。また学校の終わる時間が早く、14：00 前に終わることもあって１日の進みが早かったです。

放課後は一度家に帰りホストファザーが作ってくれたブリトーを食べて学校にまた戻り男子バスケの試合を見ました。すごく盛り上がっていて楽しかったです。バスケを見た後隣の家にホームステイをしているもう１人の留学生とそのホストブラザーを家に招き一緒にマリオカートをしてその日は終わりました。

～４日目～

今日はホストファザーが朝ごはんにパンケーキを作ってくれました。今日は学校の授業でフラダンスを踊りました。独特なリズムと動きで難しかったけれど楽しかったです。放課後は他の留学生のみんなと一緒にテニスをしに行きました。基本的な動きなどを教えてもらったけれど、初めてだったので難しかったです。夕食後には人生初のコストコに行きました。何もかもが大きくてすごく驚きました。色々まとめて売ってあるので、友達のお土産にチョコやグミ類などお菓子を大量に買いました。

～５日目～

今日は通常授業の後ホストブラザーのアーリーカレッジという大学の授業を高校で受けられるというワイパフ高校独自のプログラムについていきました。通常授業でも何をしているかなど理解が難しかったので、アーリーカレッジで教授が話していることを理解することは難しかったです。ちなみに、科学の授業でした。放課後は自分の弟のお土産を買うためにウォルマートに行きました。食べ物から服、電子機器など様々なものを取り扱っていて楽しかったです。弟にはアメリカ限定の Mr. Beast のチョコバーを買いました。家に帰ってきて夕食を食べた後は、隣の家に滞在しているもう１人の留学生のホストマザーがフローズンヨーグルト屋さんに連れて行ってくれました。セルフサービス形式で好きな味、トッピングを自由にして重量で値段が決まるシステムでした。自分はマンゴー味のフローズンヨーグルトにいちごとグミをトッピングしました。甘くて美味しかったです。

～６日目～

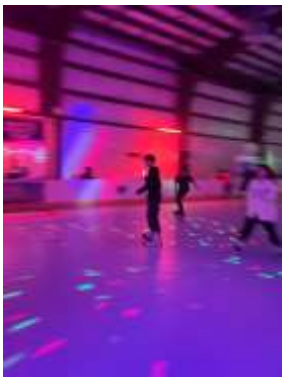
今日は１時間目からクッキングの授業でみんなと一緒にチョコチップクッキーを作りました。美味しすぎて１日を通して５つも食べました。その後ヒップホップダンスの授業に行き現地の生徒と一緒に踊りました。踊るのが苦手で難しかったけれど、みんな優しく教

えてくれて楽しかったです。放課後は日本語クラブに参加し、みんなと一緒にマシュマロとスパゲッティを使って高いタワー作り選手権をしました。また今回の留学の担当のスミス先生が校内で販売しているアサイーボウルを買ってきてくれてみんなで食べました。初めて食べたけれど美味しかったです。夜ご飯には僕がずっと食べたかったファストフードのポパイチキンをホストファザーが買ってきてくれました。食後ホストブラザーのボーイスカウトの集会についていきました。今日は金曜日で一週間の疲れが溜まっていたので帰ってきた後すぐ寝ました。

～７日目～

今日は朝から調子が悪くて、昼まで部屋で寝ていました。午後になると回復したのでホストブラザーと一緒に近くのアウトレットに買い物をしにいきました。夜は隣の家の人と一緒にバーベキューを食べて、とても美味しかったです。

～８日目～



今日は朝から留学生の友達の１人とそのホストマザーと一緒にモールで買い物をしました。その後アイスクリーム屋さんの「Dave’ｓIce Cream」にいき自分はクッキードウというクッキーの生地を使ったアイスクリームを食べました。美味しすぎて感動しました。またハワイに来たら絶対行きたい店です。午後からは他の留学生とそのホストブラザー、シスターと一緒にローラースケートに行きました。アイススケートと同じ感じで意外と簡単でした。ノれる曲が常時流れていて他のお客さんたちも踊っていて、楽しかったです。その後みんなでファミレスのZippy’ｓに食べに行きました。自分はハンバーガーを頼みました。大きくて美味しかったです。

～９日目～

今日は朝から学校の日本語クラスのみんなと一緒にスクールバスを使ってマカプウ展望台にハイキングに行きました。バスの中ではずっと陽気な音楽が流れていて歌い出す人もいて、楽しい雰囲気でした。ハイキング中は留学生の友達と話しながら登ったので笑いが絶えず楽しかったです。山の上から見る景色が綺麗で、正直ここでハワイに来たのだということを初めてしっかり感じました。帰りは途中でサービスエリアに寄って２日連続のZippy’ｓのハンバーガーを食べました。

～10 日目～

今日の学校はほとんどがホストブラザーとの授業でした。放課後は一緒に留学に来ている友達の１人と、そのホストブラザーと一緒に公園でバスケやテニスをして過ごしました。バスケをしている時、隣のコートに現地の子供たちがいて一緒に試合をすることになり、勝ちました。その後学校に戻り、友達のホストブラザーの陸上部の練習を見に行きました。この日初めて学校のグラウンドに行きました。公立高校なのに全面芝で設備もしっかりしていて驚きました。

～11 日目～

今日は１時間目にハワイ語のクラスがあり、現地の生徒たちと色々と交流ができて楽しかったです。また午後のアートのクラスでは夕焼けの絵を書きました。放課後は、学校のグッズストアで、みんなでお揃いのパーカーを買いました。パーカーの他にもＴシャツなど様々な種類のグッズがあり、充実していました。その後自分のホストマザーと留学生の１人とそのホストマザーで、ハワイ唯一（？）の電車に乗って街の風景を見ました。路線はまだ開発段階で短かったけれど、最前列に座れる席があって面白かったです。電車を降りた後、前からずっと食べたかったファストフードの「Raising canes」を食べました。おいしすぎて感動しました。

～12 日目～

今日は午前中に、ファイナンスの授業を受けました。日本では受けたことのない、投資に関する授業で、実際にシミュレーションを通して株式について学びました。ハワイでは多くの人が株式やビットコインに投資をしていて、日本でも同じような授業があれば良いと思いました。授業を受けた後、学校にあるレストランでクッキングを専攻している学生の料理を食べました。前菜には焼売、餃子、メイン料理にはビビンバ、デザートにはお餅が出ました。どれもとてもおいしかったです。放課後は留学生の友達３３人とそのホストブラザー、シスターと一緒に出かけました。最初はスターバックスに行ってみんなでお揃いのタンブラーを買いました。その後ショッピングモールに行き、前からずっと欲しかった 100 ドルのパーカーを購入しました。その後また留学生の１人のホストブラザーの陸上部の練習を見に行きました。夜ご飯には日本のカレーが出てきて、日本食が少し恋しかったので嬉しかったです。

～13 日目～

今日は学校の登校最終日でした。午前中はハワイの伝統の首飾り「レイ」をつくりました。コツをつかむのに時間がかかったけれど、つかんだ後は簡単でうまくいきました。お昼ご飯は留学生の友達の２人と一緒に食べて、そのまま最後の授業を一緒に受けました。授業の時間が余って、最後の方にみんなで有名人の年齢を当てるゲームをしました。有名人の中に、自分の推しのドウェイン・ジョンソンが出てきて楽しかったです。放課後は一度家に帰った

後、留学生の１人と一緒にテニスクラブに行きました。この日は、プレイをせずに、テニスコートの周りを散策しました。猫と鶏が大量にいたり、マングースがいたりと動物がいっぱいいました。その後学校のフェアウェルディナーに行きましたいろいろな料理があり、どれもとてもおいしかったです。また最後のお別れスピーチなど、みんなと交流する場でいろんな人と話すことができて楽しかったです。

～14 日目～

今日は隣の家に滞在している留学生の１人とそのホストファミリーと一緒にパイナップル農場の dole plantation 行きました。列車に乗って、プランテーション内を巡ったり迷路に入ったりしました。またそこではパイナップルアイスを食べました。これもまた量が多く食べきるのがきつかったです。その後夕食前にビーチに行きサンセットを見ました。この日初めてビーチに行ったのでとてもきれいでした。夕食には本格的なピザ屋さんに行きました。想像以上に大きくておいしすぎました。またサンドイッチも頼んでいたので、お腹がきつかったです。夜は犬の散歩に行った後、トランクに荷物を詰めてパッキングを完了させて寝ました。

～15 日目（最終日）～

今日は飛行機に乗る日です。朝は早かったけれどしっかり起きることができました。最後の荷物確認をして、貸してもらっていた部屋のベッドメイキングをしてから家を出て空港に向かいました。ホストファミリーとのお別れはとても悲しかったです。２週間いろんな経験をさせてもらってとても楽しかったし、まだまだハワイに居続けたかったです。お別れをした後、荷物預かり手続きをしました。事前にトランクの重さを測った時、重量超過ギリギリで、追加料金を取られる覚悟をしていたけれど、その日はワイパフ高校のグッズのパーカーを着ていて、たまたま担当の人がワイパフ高校卒業だったらしく善意で許してくれました。その後手荷物検査で水筒に水が入ったまま検査場を通過してしまい、職員に止められたけれどこの時も、たまたま担当した職員の子供がワイパフ高校に通っているらしく、その話になりとても優しく対応してくれました。その後制限エリア内で最後の買い物をしたり、機内で食べるお菓子などを買ったりした後、飛行機に乗りました。機内食には生姜焼きが出てきて、久しぶりにしっかりとした日本食が食べられて嬉しかったです。機内では３３時間もする映画ゴッドファーザーとシャーロックホームズを観ました。時間はあっという間に過ぎ羽田空港に着きました。空港ではみんなで一緒にそばを食べました。ここで気づいたのは日本の食べ物の味は素朴で薄いということです。逆にハワイの食べ物は味付けが濃かったです。その後、新千歳空港までのフライトでは、たまたま留学生の２人の友達と席が隣り合っていたので、盛り上がって楽しかったです。あっという間に時間が経ち新千歳空港に着陸しました。仲間たちみんなと別れるのは悲しかったです。

［今回の研修で学んだこと］

今回、私は「ハワイの多文化社会の歴史と食文化」を研修のテーマとしました。設定理由は、「多文化社会」という難しいものを現地の学校で学べるかもしれないと考えたことが一つです。インターネットで調べてもある程度は出てくるかもしれませんが、やはり現地の学校で学ぶことが一番深く理解できると考え、設定しました。食文化は以前から興味があり、今回のホームステイを通して新たな発見ができればと思い、設定しました。下記が、今回の発見です。

- 多文化社会について、ハワイ史の授業では、王国時代のことについて学び、裏話（王が住む家が攻撃されたときの砲弾が今でも残っているなど）を聞けたことが面白かったです。
- ハワイに行く前のイメージだと、実際に住んでいる人は白人系アメリカ人が多いと思っていましたが、意外とアジア系やサモア系などの移民が多かったです。アメリカとの併合があったから、そのようなイメージを持っていましたが、ハワイ史の授業を通して、実際は異なることを学べました。また、授業で習ったハワイ語も、単語を覚えていくうちに使えるようになっていったことが嬉しかったです。
- 食文化に関しては、朝食にお米が出てきたり、ホストファミリーの家に海苔やふりかけがあったりなど、日本の食材が多くあって驚きました。自分が思っているよりも、意外と日本食が普及しているのだと思います。食文化の観点においても、日本との共通点があることを強く感じました。
- ハワイの料理で一番おいしいと感じたものは、マラサダでした。マラサダは、砂糖がたっぷりまぶされたドーナツで、ハワイの食材とアメリカンな味付けが組み合わさったものです。サイズも色も、日本で食べるドーナツとは大きく違い、ハワイらしさを感じる一品でした。
- 日本の食べ物があったり、日本人とのハーフが多かったりと、改めて日本との強い結びつきを感じることができた。

［留学を終えて］

ハワイに着いた時はとても緊張していて、環境に慣れることができるか不安でしたが、優しいホストファミリーや一緒に留学に来た仲間たちのおかげでとても楽しく良い経験となりました。今回の交換留学プログラムでは、現地の高校生と関わったりすることで自分はコミュニケーション能力が格段に上がったと思います。逆に英語で生活していく中で、自分の苦手なところや改善しないといけないところもたくさん発見することができました。こういった改善点は、今後英語を学習していく中で頑張っていきたいと思います。最後になりますが、今回このプログラムに関わり、自分たちのことをサポートしてくれた方々、引率してくれた先生、並びにホストファミリーや現地の高校の関係者の皆様には感謝しかありません。本当にありがとうございました。今回の経験は、自分にとって一生物の宝物です。

# 4-2 派遣事業
# （教員編）

## 北海道・ハワイ州高校生交換留学促進事業 引率報告書

北海道釧路明輝高等学校　教諭

### ⑴ 生徒について気付いたこと

オンラインでの事前研修を経て、出発を迎えた生徒たち。家族との２週間の別れを前に、保安検査のゲートを通過するまではずっと保護者と話していた彼らが、一体この後どのような変化を遂げるのか、期待と一抹の不安を抱きながら、ホノルルに向かいました。

彼らが最初に変わった瞬間は、約200名の前で行った自己紹介。各自で作成したパワーポイントを基にプレゼンテーションをしたのですが、ハワイの高校生のリアクションがとにかく元気なのです。そんな盛り上がりもあり、緊張も一気に吹き飛んだようで、全員参加型にしたり、質問を投げかけたりと、工夫したプレゼンテーションを見せていました。

次に変化が見られたのは、お昼休みの過ごし方。研修中は、控室（現地で対応してくださる先生の教室）で昼食を取っても良いことになっていたのですが、日に日に控室に戻って来る生徒が減っていったことが印象的でした。ハワイで過ごしていくうちに、日本人同士で話すようになって、やがて現地の生徒と交流する機会が減っていくのではないかと危惧していたのですが、杞憂に終わりました。放課後はパートナーやホストファミリーの協力もあり、それぞれの部活に参加したり、アーリーカレッジプログラム（放課後に実施されており、大学で勉強することを先取りして学べるプログラム）に参加したりと、ハワイでしかできない経験を存分に楽しんでいる様子でした。

全体を通して変化したのは、積極性。最初は日本人同士でも会話が続かなかった６名でしたが、時が経つにつれて日本人同士の会話はもちろんのこと、留学生との日常会話も、積極的に行っていくようになりました。授業中のペアワーク、授業後の雑談、すれ違う時のハイタッチ。次第にハワイに馴染んでいく姿が、見ていてとても嬉しくなりました。

残念ながら現地で最後まで見届けることはできませんでしたが、新千歳空港に帰ってきた６名の表情は、２週間の達成感に満ちた顔つきでした。

### ⑵ 引率教員・英語科教員として感じたこと、学んだこと

渡航手続きや事前研修については、本庁の皆様のおかげで、スムーズに進めることができました。また現地においても、生徒たちが積極的に行動していたため、こちらから何かを注意したり、参加を促したりするようなことはほぼありませんでした。ただ引率教員として、事前研修でもう少し生徒と話をしておけば良かったと反省しているところです。例えば、ホームステイの心得や、ホストファミリーとの関わり方など、もっと詳細に伝えておくことができれば、生徒にとってより充実した研修にすることができたと思います。

英語科教員として、今回の研修ではワイパフ高校、ナナクリ高校、アイエア高校の３つの高校を見学する機会をいただきました。どの学校もそれぞれ特色があり、大変興味深く見学させていただいたのですが、多くの生徒が、自ら学ぼうと積極的に学習に臨んでいる姿が印象的でした。居眠り、他教科の学習、必要な時以外のスマホ使用といった、日本の学校でよく見聞きするようなことが、ハワイでは見られなかったのです。一体何がモチベーションになっているのか、現地の先生方とも話をしたのですが、これといって特別な指導はしていないとのことでした。分掌や職員会議といった、全体で指導するという雰囲気ではなかったため、きっと一人ひとりの声掛けや、年度初めのルール作りなど、それぞれの先生方の指導されていることが、生徒に伝わっているのだと思います。

また、アイエア高校ではAdvisoryのクラス（日本でいう総合学習）も見学したのですが、この時間は一斉授業とせず、各自必要なことを進めているようでした。期末テストに向けて勉強している生徒、近々行われる日本トリビアクイズ大会（優勝賞品は日本への旅行）に参加するための練習に励む生徒、春節のお祭りに向けて準備を進める生徒など、実に様々な過ごし方が見えました。本来の意味とは少し異なるかもしれませんが、「個別最適な学び」の一つの在り方なのかもしれません。ちなみにその他の授業では、ペアワークやタブレットを使用したアクティビティを取り入れた、一斉授業の形式が多く見られました。

今回、今後の北海道の高校との国際交流のきっかけを作ることができればと思っていたのですが、まずはオンラインでの交流を進めていくことになりました。ナナクリ高校はオアフ島の西側にあり、担当の先生は「観光客はワイキキエリアに留まってしまうため、交流の機会が少ない」ということをお話しされていました。また、アイエア高校の先生は、「広島の高校とは交流をしているが、北海道の高校とはまだ交流したことがない」とのことで、交流を始めることができそうです。また、今回たまたまオアフ島の先生方の研修日程と重なり、カイルアのintermediate schoolの先生ともお話しすることができ、何か面白いことを企画できれば、と話をしていたところでした。

**⑶ 本事業全体に係る感想や、課題と感じること**

若い世代の内向き志向が叫ばれる中、海外に興味を持ち、慣れない環境で頑張る生徒をサポートできたことは、私にとって貴重で有意義な経験になりました。また、参加した６名の生徒にとっても、今回のプログラムはどれも日本で高校生活を送るだけでは経験できなかったことばかりだったと思います。そんな経験を高校生のうちにできたことは、これからの人生で大いに役立つことでしょう。また、「日本はいい国だ」「日本から出たくない」「海外は危険だ」と口にする人がいますが、海外への渡航経験の有無で、この言葉の重みがまったく異なってきます。近年、オンラインによる交流の機会も増え、交流のハードルは下がっていると感じますが、現地で直接体験することに勝るものはありません。今後、より多くの生徒がこの事業に興味を持ち、応募・参加を通じて、口先だけでなく、自分で見聞きしたものを基に行動できる生徒が増えることを願っております。

この事業を持続可能なものにするために、オンライン交流や姉妹校提携といった方法があるかと思いますが、やはりハードルとなるのは「時差」のようです。ワイパフ高校の先生と話をした際、時差の関係でオンライン交流（ZoomやGoogle Meetなどを使用した、リアルタイムでの交流）の実施が難しいことや、より交流しやすい手段について、話題になりました。そしてもう１つのハードルは、「日本の学校の転勤制度」についてです。そもそも、転勤の制度自体がハワイでは馴染がないようで、多くの先生方に驚かれました。せっかく交流を始めることができても、担当者が変わったことによって交流ができなくなった、という経験が、ハワイでも稀に起こったようですが、恐らく転勤が原因であることを話したところ、納得されていました。この機会を無駄にせず、北海道全体の国際交流の促進のため、引継や校内での担当者を複数体制にするなど、何かしらの策を講じる必要があると感じています。

20代の最後に、このような素晴らしい経験ができたことに、心から感謝しております。お世話になりました教育委員会の皆様、渡航前から復路引率までご対応いただいた宮下様、機会をくださった校長先生、教頭先生、教職員、事務職員の皆様、そして本事業に応募し、参加してくれた６名の生徒、保護者の皆様、本当にありがとうございました。

# ５　受入事業

# ハワイ州からの留学生受入事業に係る報告書

北海道札幌国際情報高等学校 教諭（受入担当）

## １ 本校の実態

本校は今年、開校 30 周年を迎えた。毎年多くの海外からの視察受入れ、留学生の中長短期滞在があったが、コロナ禍においては訪問が途絶え、オンライン中心の交流となっていた。昨年から相互交流が再開されはじめ、本校の生徒たちは、様々な国からの留学生との交流の機会を心待ちにしている。また、２学年の見学旅行における訪問先はハワイであり、生徒は現地の高校での交流も楽しみにしている様子が見られる。

## ２ 受入れ時の学校の取組

受入れ期間が推薦入試の週であり、登校日が２日間しかないこと、また、学年末考査一週間前であることを考慮しながら、充実した滞在となるよう準備を行った。考査一週間前から部活動が停止となってしまうため、受入れ初日の日曜日、学校で吹奏楽部によるウェルカムコンサートを行い、ホストファミリーとの対面式を実施した。また、登校日にはなぎなた部とお琴の会による体験を時間割の中に組み入れて実施した。

また、授業では、本校の特徴である多学科集合型を体感してもらえるよう、国際文化科の英語、理数工学科の実習、グローバルビジネス科のプレゼンテーションといった多様な形態の授業を設定した。そのほか、日本料理の実習や茶道体験、北海道の生き物に関する授業などを通して、日本らしさや北海道らしさを感じられるカリキュラムを設定した。

## ３ 本校生徒の様子

ハワイの生徒の笑顔や積極的に交流をしようとする姿に触発され、学校の中に笑顔が溢れた。「私のクラスにも来てほしい！」、「もっと話したい！」といった声が多く聞かれた。日本の文化を紹介した部活動の生徒たちは、ハワイの生徒たちが日本文化を興味深く学び、楽しんでくれる様子に感動するとともに、日頃の学習の成果を発揮することができ、満足していた。

また、英語の授業では、ハワイの生徒に対して英語を用いたプレゼンテーション活動を

行った。初めは緊張する様子が見られたが、徐々に打ち解け、授業の中でも英語によるコミュニケーション力が格段に上がっていく様子が見受けられた。

２年生の日本料理実習や茶道体験等に係る授業では、３年生がサポーターとして、特別に授業へ参加した。３年生の堪能な語学力や、留学生に楽しんでもらいたいという「おもてなし力」の高さを見て、２年生の生徒たちは、先輩への憧れを強くした。

### ４ 留学生の様子

７名の留学生全員が、日本や日本文化に強い関心があり、日本語も積極的に用いながらポジティヴに過ごしていることが印象的だった。過密スケジュールに加え、ハワイとはかなりの温度差がある環境にもかかわらず、疲れを見せずに元気いっぱいに過ごしていた。

また、メッセージを書いてホームルームで生徒へ配布したり、交流した生徒たちに小さなお土産を渡したりして、細かい気遣いが随所に見られ、教員や生徒たちから「心遣いに感動した。」との反響があった。また、学校やホストファミリーとの積極的な交流の影響もあり、留学生たちの日本語は急速に上達したように感じられた。

### ５ ホームステイ

今回のホストファミリーは、全て１年生の生徒の家庭だった。本校には留学生のホームステイ受入れに理解がある家庭が多い。今年度だけでも、アメリカの姉妹校 10 名、キルギスの交流校５名、カナダアルバータの交換留学生３名、AFS 年間生２名と、多くの家庭の協力をいただき、ホームステイを実現させてきた。

しかし、今回のハワイワイパフ高校からの留学生の受入は、学年末考査の一週間前であることから、生徒の勉強に対する不安や、受入家庭の十分におもてなしができないのではないかという不安があり、７家庭から了承をいただけたのは 12 月中旬となった。

結果として、ホストファミリーのあたたかいもてなしにより、留学生たちから「毎日の夕飯がおいしかった！」や「もっと日本にいたい！」といった感想を聞くことができた。

また、ホストファミリーの生徒たちの考査前の学習時間を確保するため、３ 年生サポーターが、学校での授業補助や、留学生の外出に２日間同行するなどして、受入れ生徒を支えてくれた。外出１日目は、雪まつりの見学であった。ハワイの生徒たちは初めて見る雪に大変興奮するとともに、３ 年生サポーターとの会話を楽しんでいた。外出２日目は、北海道神宮と円山動物園を訪問するグループと、小樽を散策するグループに分かれて観光を行った。

その他、ホストファミリーとの外出では、藻岩山やＦヴィレッジでスキーを楽しんだり、白い恋人パークや支笏湖の氷濤まつりを訪れたりした家庭があったようで、留学生はそれぞれの時間を楽しんでいたようである。

## ６ 全体を通して

一週間という短い時間であったが、本校生徒及びハワイからの留学生双方にとって、充実した交流の機会となった。日本にルーツをもち、日本文化や日本語に対する意識が高いハワイの高校生との交流は、本校生徒が海外に興味・関心を高めるよい機会となったと感じている。ホームステイを受け入れた家庭や授業で交流があった生徒に限らず、学校全体に「ALOHA！」という挨拶と明るい雰囲気が溢れ、秋に見学旅行でハワイを訪問する１年生にとっては、特にモチベーションを高める機会となった。

帰国の際、涙で抱き合いながら別れを惜しみ、再会を約束している生徒たちの姿を見て、オンライン交流では決して感じることのできない、リアルな交流がもたらす交流活動の素晴らしさを再認識した。今後もさらなる交流の活性化に期待したい。

令和6年度（2024 年度）北海道・ハワイ州高校生交換留学促進事業

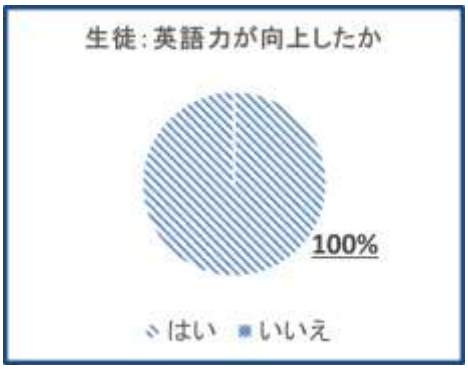
## ――アンケート結果から見える事業効果―

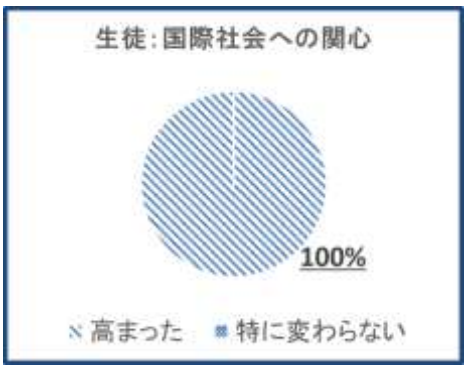
（北海道教育庁学校教育局高校教育課）

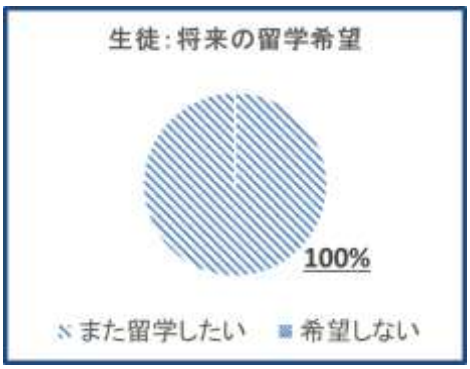
### 北海道側留学生の派遣事業

■ 事業効果

参加生徒全員（6名）が、「英語力の向上を実感した」、「国際社会への関心が高まった」と感じ、「将来また留学したい」と回答。




■ 北海道側留学生の感想

- 語学力向上に加え、視野を広げる貴重な経験を得ることができた。多様な授業や温かい校風、課外活動で現地の人々のフレンドリーさを実感し、英語を使用する環境に身を置くことで、改めて言語学習が好きになった。また、将来関わりたいと思っている観光業界への学びを深めることができた。
- 留学により英語力が向上し、コミュニケーションの幅が広がった。異文化を直接体験することで、多様な価値観への理解が深まった。自己紹介プレゼンテーション発表や学校生活を通じて主体性が養われ、自信が高まった。ウクレレの授業を通じて、音楽は世界共通ということに気がついた。
- ホストファミリーや留学先の生徒との交流を通じて、人とのつながりや感謝の重要性を学ぶことができた。自己紹介プレゼンテーション発表をきっかけに同じ趣味を持つ人と交流を深め、また、SNS の交換を通じて人間関係を広げられた。英語力の課題を再認識し、学び続ける意欲を得た。
- 日本の学校との違いを体験し、異文化への理解を深めることができた。初めは緊張していたものの、積極的に交流をすることで自信を高めることができ、コミュニケーションの重要性を学んだ。また、自分が興味をもったテーマについて調査し、良い面だけでなく、課題も実感することができた有意義な経験であった。
- 目標を達成する中で挑戦の重要性を実感し、留学を通じて自信を得た。チップ文化や物価の高さなどを実際に体験することができ、また、フラダンスの授業やレイづくりなど、学校生活でも異文化理解を深めることができた。多くの人に支えられていることを実感した。
- ハワイの多文化社会や食文化への理解を深める機会となった。ホストファミリーや留学先の学校の生徒との交流を通じて会話力と社交的なスキルが向上したと感じた一方、ハワイでの生活を通じて課題を発見し、挑戦の意義を実感した。

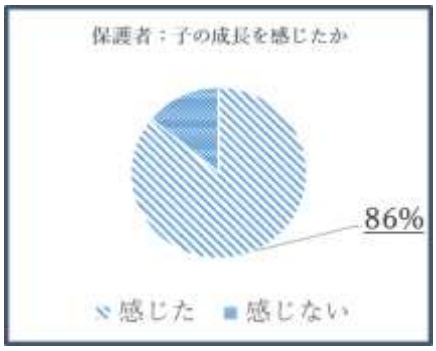
■ 引率教員の感想

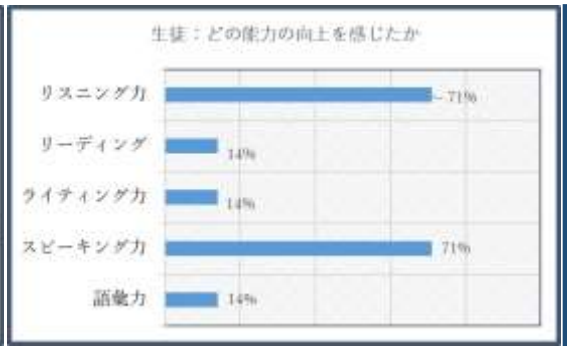
- 日本で教えるだけでは得られない貴重な経験を積む絶好の機会であった。
- 観光では得られない、現地高校生の雰囲気や他校視察ができた点が非常に貴重であった。
- 海外への生徒引率が初めてであったが、企画段階からの進め方や現地対応の方法を学ぶ良い機会となった。
- 生徒は、授業や日常のやり取りを通じて、コミュニケーション力と積極性が向上したと感じる。放課後には部活動やアーリーカレッジプログラムなど、現地ならではの体験を楽しんでいた。
- 留学先のワイパフ高校のほかにも2校の学校を視察する機会があった。どの学校も、生徒が自主的な学びをしていることが印象的だった。個別最適な学びの実践例を視察し、新しい学びの形を認識できた。
- 今回の引率業務をきっかけに、視察した2校と自校と交流をする予定である。

## ハワイ州側留学生の受入事業

■ **事業効果**

受入学校は、「生徒の英語学習の動機付けとなった」、「見学旅行（ハワイ）へのモチベーションが上がった」と回答。また、家庭で受入をした保護者は、約9割が「子の成長を実感した」と回答し、受入家庭のホスト生徒は、主に「リスニング力」や「スピーキング力」の向上を実感したと回答。




学校:学校の様子

- 日本以外の文化に興味をもつ生徒が増えたと感じる。
- 秋に見学旅行でハワイへ行くモチベーションが上がっている。

■ **事業参加者の感想**

✧ **受入学校（北海道札幌国際情報高等学校）**

- 留学生の受入行程について、管理職や学校宛てのメールは受付から担当者までまわってくるのに数日かかることもあるため、高校教育課が管理職に送る連絡内容に実務者も cc.で加えてもらうと助かる。
- 学校のない日の行動で、仲良い留学生同士が一緒に行動したいということで、こちらのホストが計画していた内容が変更することなどがあった。基本的に留学生同士での行動は控え、ホストや日本人生徒の予定通りに行動するよう事前に伝えておけばよかった。
- 留学生全員、しっかりした留学生だった。「朝起こすのに苦労した」などということや、体調不良の対応などに関する相談も寄せられなかった。

✧ **受入家庭**

- 緊張していた様子ではあったが、一生懸命コミュニケーションをとってくれて、息子ともすぐに仲良くなっていた。私（母）のことを何と呼んだら良いのか聞いてくれて、2日目から「お母さん！」と呼んでくれるようになり、とても嬉しかった。
- 人に対して気遣いが自然にできる留学生で、お手伝いなども積極的に参加し、嫌な顔一つしないとてもよい留学生だった。
- 来日前から留学生とやり取りをしていたため、スムーズに受け入れることができた。とても好奇心旺盛な留学生で、日本の風景や街中の雰囲気に興味を示し、また、日本食もとても美味しいと言って食べてくれた。ホームステイ最終日に「帰りたくない」と言っていたので、楽しんでもらえたと感じている。

✧ **受入家庭の生徒**

- 明るく日本語を話そうと努力し、家族とコミュニケーションをとるようにしてくれた。
- 海外についてさらに興味をもつようになった。留学ができるならぜひしたい、そしてホストファミリーにもなりたいと思った。
- とても貴重な体験をすることができた。元々、国際交流や留学、ホームステイなどに興味があって、その気持ちがさらに高まった。また英語の勉強のモチベーションも上がり、今まで以上に勉強するようになった。次は、私が留学し、ホームステイをしてみたいと思った。